

# 公益社団法人日本薬剤学会 2022 年度事業報告

(2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日まで)

## 公益目的事業 1「薬剤学及び関連諸領域に関する情報提供及び啓発、研究の振興、調査研究並びに評価により、薬剤学の進歩とその成果の利用普及を図る事業」

### まえがき

今年度は公益社団法人としての責務を遂行するに当たり、上掲の「公益目的事業 1」を着実に推進するための事業計画を立案し、理事会を中心としたガバナンス体制の下、着実に事業の運用を図った。また、健全な財務基盤の確保も円滑な事業運営の課題であるが、事業ごとに精査を行い、こちらも適正運用の達成に努めた。

### 会長（尾関会長）

#### 1 APSTJ 2025 推進事業

- 理事会主導により、日本薬剤学会の 2025 年へ向けたあり方“APSTJ 2025”の検討を行った。
- 日本薬剤学会の今後の活動について、若手世代を中心に議論することを目的として令和のビジョン委員会を設置し、活動を開始した。
- 国内外の関連学協会との交流事業を推進した。

#### 2 国際標準医薬分業推進事業

- 国際標準的な医薬分業（完全分業あるいは強制分業）への移行について、必要な情報を整理しつつ、実施に向けた戦略の立案等、検討を行った。

### 副会長総務担当理事（楠原副会長）

#### 1 学会賞等表彰事業

1.1 薬師メダル	受賞者	なし
1.2 学会賞	受賞者	今井輝子
1.3 功績賞	受賞者	なし
1.4 奨励賞	受賞者	小出裕之、植田圭祐、草森浩輔
1.5 タケル&アヤ・ヒグチ記念荣誉講演賞	受賞者	William Neil Charman
1.6 タケル&アヤ・ヒグチ記念賞	受賞者	---当期設定なし---
1.7 永井記念国際女性科学者賞	受賞者	樋口ゆり子
1.8 創剤特別賞	受賞者	なし
1.9 優秀論文賞	受賞者	---当期設定なし---
1.10 製剤の達人称号	受賞者	宮島 誠、山口正純、宇治謹吾、小島宏行 荒井宏明、本田洋介、大島孝雄、鈴木恭介 石本隼人
1.11 国際フェロー称号	受賞者	William Neil Charman
1.12 「薬と健康の週間」懸賞論文	第 1 席	原 悠斗
	第 2 席	渡辺日菜子
	第 3 席	関根奈央

#### 2 創剤開発・研究賞表彰事業

2.1 旭化成創剤開発技術賞	受賞者	石本隼人、小川真裕、寿命大輔、市原 駿
2.2 旭化成創剤研究奨励賞	受賞者	清水広介、異島 優

### 渉外担当理事（小暮理事）

#### 1 学生主催シンポジウム事業

薬剤学に関わる学生の研究室・大学間を超えた活発な交流と、口演能力や講演会運営スキルを涵養することを趣旨として、年会において学生主催シンポジウム SNPEE 2022（「Our challenge accelerate the sprouting process」）を 37 年会においてオンライン開催した。

2022 年 5 月 27 日（オンライン開催）参加者 54 名

#### 2 広報委員会事業

学会ウェブサイトにより使いやすくすると共に、本学会の活動の広報や、会員の拡大のために関連諸領域の研究者への本学会のアピールを図った。また、オンライン化した「薬剤学」誌のウェブサイトからの情報発信を編集委員会と協力しながら行った。

### 3 医薬品の包装と情報分科会事業

薬剤学を支える包装・情報に関し、専門の研究者・技術者が協議し、本学会会員に情報発信を行うことを目的に、37年会において「医薬品包装シンポジウム」をオンライン開催した。

「サステナブル社会の実現に向け今後の医薬品包装ができることは？」

2022年5月28日（オンライン開催）参加者 56名

### 4 教育分科会事業

薬剤学に関わる教育問題について、専門委員が協議して提言を行う他、年会においては以下のとおり薬学教育シンポジウムをオンライン開催した。

「薬学教育シンポジウム」（薬剤師の職能教育：社会から求められる薬剤師を輩出するためには？）

2022年5月28日（オンライン開催）参加者 40名

## 国際連携担当理事（西川理事）

### 1 英語セミナー事業

国際共通言語である英語での討議能力を養うため、訪日した海外研究者・国内の研究者等を講師として招聘し、講義・ディスカッションの全てを英語で行う Global Education Seminar をオンラインで開催した。

#### 1.1 第1回英語セミナー

2022年10月1日 オンライン：参加者 91名

#### 1.2 第2回英語セミナー

2023年2月2日 オンライン：参加者 130名

### 2 国際学会等協力事業

#### 2.1 FIP（国際薬学連合）

FIPの Predominantly Scientific Member Organization として、Council Meeting で重要事項を審議した。

#### 2.2 AFPS（アジア薬科学連合）

AFPS2021の企画・運営に参画しているが、コロナ禍の影響でAFPS2021の開催は2023年に延期する事が決定された（Hanoi University of PharmacyのProf. Dr. Nguyen Hai Namによりベトナムのハノイ市で11月8日～10日に開催予定）。

#### 2.3 第4回日韓若手薬剤学研究者ワークショップは、COVID-19の影響で開催が延期された。

## 機関誌担当理事（武田理事）

### 1 「薬剤学」編集委員会事業

「薬剤学」誌の企画編集と「薬と健康の週間」懸賞論文の選考を実施した。原著論文についてはJ-STAGEでのWeb公開と同時に、他の記事はWeb公開の半年後から全情報を公開し、「薬剤学」の引用率向上に努めてきた。なお「薬剤学」の発行形態は2021年度から「年4回、いずれも冊子体およびWeb配信（J-STAGE）」とし会員への利便性を向上した。

### 2 投稿論文審査委員会事業

「薬剤学」誌への投稿論文を審査した。また、論文投稿規程を一部変更し、利益相反等に関する項目を追加した。優秀論文賞の選考は、次年度より毎年行う事とした。

### 3 学会誌出版事業

#### 3.1 機関誌「薬剤学」

「薬剤学」編集委員会の担当する依頼原稿と投稿論文審査委員会の審査による一般論文で構成される「薬剤学」誌を以下のとおり発行した。

Vol. 82 No. 2 2022年4月1日発行

Vol. 82 No. 3 2022年7月1日発行

Vol. 82 No. 4 2022年10月1日発行

Vol. 83 No. 1 2023年1月1日発行

英文論文についても積極的な投稿促進を図った。

#### 3.2 公式欧文誌「Journal of Drug Delivery Science and Technology」

昨年度に引き続きJDDSTへの投稿や購読促進を図った。2022年度は以下の通り発行した。

Vol.70 April, 2022

Vol.71 May, 2022

Vol.72 June, 2022

Vol.73 July, 2022

Vol.74 August, 2022

Vol.75 September, 2022

Vol.76	October, 2022	Vol.77	November, 2022
Vol.78	December, 2022	Vol.79	January, 2023
Vol.80	February, 2023	Vol.81	March, 2023

### 書籍担当理事（米持理事）

- 1 出版委員会事業
  - 1.1 第21～30回の製剤技術伝承講習会を纏めた書籍を計画した。
  - 1.2 超分子薬剤学FG及び前臨床開発FGと共同で企画した「デジタルトランスフォーメーションで変わる医療」を月刊誌 Pharm Tech Japan（じほう社）にて連載した。

### 技術担当理事（米持理事）

- 1 製剤技術伝承講習会事業
 

製薬企業各社でのアウトソーシングの加速により、滅失が懸念されているわが国の製剤技術を次代の製剤研究者・技術者に継承するため、座学・実習の講習会を企画運営したが、COVID-19の影響によりオンラインあるいは実地で開催した。

  - 1.1 第30回シミック製剤技術アカデミー／製剤技術伝承講習会  
「経口製剤の製剤設計と製造法」 参加者 30名  
2022年6月16-17日, 7月14-15日 オンライン開催
  - 1.2 第21回製剤技術伝承実習講習会  
「製剤設計の基盤となる多様性広がる化合物の評価戦略 II」 参加者 24名  
2022年8月25-26日 星薬科大学
  - 1.3 第22回製剤技術伝承実習講習会  
「連続生産システムにおけるプロセス制御とレギュレーション」 参加者 14名  
2022年12月15-16日 (株)パウレック
  - 1.4 第31回シミック製剤技術アカデミー／製剤技術伝承講習会  
「非経口製剤の製剤設計と製造法」 参加者 22名  
2023年2月9-10日 大阪大谷大学  
3月3-4日 オンライン開催
- 2 製剤技師認定事業
 

医薬品メーカー等において製剤に携わる研究・開発・製造担当で、日常業務の遂行上必要とされる共通の基礎的かつ専門的事項及び法規・制度の学識を修得している者を「製剤技師」として認定する。今年度も本認定試験の社会的な認知度とステータスの向上を図るため、様々な活動を展開した。今期の開催と認定者は以下のとおり。

  - 2.1 第13回製剤技師認定試験 28名受験  
2022年10月15日  
東京会場：味覚糖 UHA 館 TKP 浜松町カンファレンスセンター  
大阪会場：TKP 新大阪駅前カンファレンスセンター
  - 2.2 第13回製剤技師認定者（25名、合計認定者数310名）  
大河内一宏, 黒川剛志, 古賀彩加, 早苗秀敏, 下田哲典, 鈴木貴弘, 澄川 大, 澄田憲祐, 住田基樹, 多田昌市, 谷吉雅俊, 中田信一, 永野貴士, 西村祥子, 野村昌史, 服部雅輝, 林 裕人, 平井 光, 廣瀬研二, 廣瀬 淳, 二渡弘貴, 村上智彦, 山口昇太, 山下有希, 渡壁徳治

### 製剤・創剤セミナー担当理事（岡本理事）

- 1 製剤・創剤セミナー事業
 

大学・製薬企業・医療機関などにおいて製剤技術に関わる研究者・学生が一堂に集い、医療・薬剤学に関し、サイエンスとテクノロジーの観点のみならず刻々と変化する時代のニーズも合わせて議論する合宿形式の討論会「製剤・創剤セミナー」を以下のとおり開催した。

  - 1.1 第47回製・創剤セミナー 参加者 96名  
「創剤には医療を変える力がある」  
2022年9月8-9日, クロス・ウエーブ府中

### 公開市民講演会事業担当理事（崔理事）

- 1 公開市民講演会事業

一般市民を対象とした公開市民講演会を企画し、今期は以下の通りオンデマンド配信した。

「薬剤師によるさらなる市民の健康増進」

2022年9月25日-2023年3月31日（オンデマンド配信） アクセス数 380件

## FG 担当理事（石田理事）

### 1 FG 統括委員会事業

共通の研究目的等による分野横断的なユニットである各フォーカスグループ（FG）を統括する委員会として、各 FG の執行部・事業・予算の管理を行い、各 FG に対する助言や FG・理事会間のリエゾンを担当した。事業・予算の管理のための FG 統括委員会はメール会議で対応した。

以下、各 FG の活動報告概要を示す。

- **【経口吸収 FG】**
  - ・日本薬物動態学会吸収 DIS との合同研究討論会 2022「薬剤学-薬物動態学連携による経口医薬品開発の高質化 ～最新の情報と手法、目前の課題と疑問、見据える指針と展望を共有する～」を開催した（2022年12月15日、神戸）。
  - ・例年実施してきた合宿討論会は、COVID-19の影響により中止した。
- **【経皮投与製剤 FG】**

経皮投与製剤に関わる最新の知見や技術情報を共有するとともに、経皮投与製剤の研究に従事する研究者同士が議論する場を提供する取り組みとして、第12回経皮投与製剤 FG シンポジウム（後援：城西国際大学）をハイブリッド形式（現地開催および Web 開催の併用）で開催した（2023年2月22日）。本年度は、「皮膚計測機器」、「透過促進デバイス」、「製剤測定機器」に関する内容で、現地およびオンラインの参加者はそれぞれ70名、40名であった。
- **【経肺経鼻投与製剤 FG】**
  - ・経肺経鼻投与製剤 FG 研究会を5年ぶりに対面・Web のハイブリッド形式で開催した（2023年2月17日、神戸学院大学及び Zoom）。ウイズコロナ・ポストコロナを念頭に、核酸や経鼻ワクチン開発、早期開発支援システム、そして患者さんが使いやすいデバイス開発に関するご講演をいただいた。約70名の参加があり、質疑応答では現地参加、Web 参加の両方より活発な議論が行われた。
- **【核酸・遺伝子医薬 FG】**

本 FG では、核酸医薬・遺伝子医薬の設計、合成、分析、体内動態（ADME）、安定化や標的指向化のための化学的・製剤学的工夫、臨床・非臨床試験、レギュラトリーサイエンスなどを議論することを目的として、以下の活動を行った。

  - ・FG 誌上対談「フォーカスグループのこれまでの軌跡と今後の展望：核酸・遺伝子医薬 FG」を行い、学会誌「薬剤学」82, 116-120（2022）に記事を掲載した。」
  - ・日本薬剤学会第37年会にてラウンドテーブル「脂質ナノ粒子製剤の形態・構造分析研究の最前線」を物性 FG との共催で開催した（2022年5月）。
- **【薬物相互作用・個別化医療 FG】**

本 FG では、薬物動態（または薬効）の個体間変動を創薬や臨床においてどのように捉え、対処すべきかについて議論する目的で、以下の活動を行った。

  - ・日本薬剤学会第37年会にてラウンドテーブル「トランスポーターを介した薬物相互作用予測の現状—課題と新しいツールの活用」を開催した（2022年5月）。
  - ・第32回日本医療薬学会年会 シンポジウム「見えてきた！多種多様な薬物相互作用の解釈と臨床応用」（2022年9月24日、群馬）を本 FG との共催で開催した。なお、本シンポジウムのレポートが、「薬剤学」に掲載された（薬剤学 2023; 83(1): 45-46）。
- **【医療 ZD と完全分業 FG】**

薬剤師が医師処方箋のレビューを含めた真の調剤を実践し、そのリスク管理の医療における ZD（Zero Defect）が達成されるよう 医薬分業の理念（医薬業の完全分離、処方鑑査の徹底、薬剤師 Ethics を高揚し薬剤師の質的向上）を基盤としたシステム・教育の構築を目指す討論を今年度も E-mail 討論により進めた。
- **【DDS 製剤臨床応用 FG】**

DDS 製剤の臨床応用に向けた取り組みの気運が高まる中、研究者間のコミュニケーション

の活性化, 研究成果の結実に向けた課題解決を目指し, 以下を実施した.

- ・日本薬剤学会第 37 年会ラウンドテーブルセッション「国産の革新的ワクチン開発における課題と展望」(2022 年 5 月 27 日(京都)) オンライン開催
- ・第 30 回 DDS カンファレンス合同シンポジウム「DDS 製剤の臨床応用の現在地: リポソーム製剤における CMC 課題と今後の展望」(2022 年 9 月 16 日(静岡))
- ・日本薬学会第 143 年会 一般シンポジウム「アクティブターゲティング型 DDS 研究の新展開～基礎研究から実用化まで～」(2023 年 3 月 26 日(北海道))

#### 【物性 FG】

物性フォーカスグループセミナー2022「振動分光による原薬・製剤の物性評価」(2023 年 3 月 3 日, 参加者 119 名)をハイブリッド形式で開催した. セミナー終了後のアンケート結果は物性 FG 専用の HP (URL: <http://bussei-FG.com/>) を通じて公開した.

- ・日本薬剤学会第 37 年会にてラウンドテーブル「脂質ナノ粒子製剤の形態・構造分析研究の最前線」を核酸・遺伝子医薬 FG との共催で開催した(2022 年 5 月).

#### 【製剤処方・プロセスの最適化検討 FG】

当 FG の活動を進めるにあたり, オンライン委員会を 6 回開催した. 2023 年 3 月 1~31 日に日本薬剤学会ホームページの会員専用ページにて, QbD に関するオンデマンド講演会(演題 2 題)を開催した. また, 前回の QbD に関するアンケートから既に 5 年が経過しているため, QbD の現状を把握するために, QbD に関する Web アンケートを準備中である. QbD に関する Web アンケートは 2023 年 8 月頃に実施予定である.

#### 【臨床製剤 FG】

調剤・製剤技術は薬剤師の根源的な職能であり, その伝承のためには, エッセンシャルな院内製剤の選定, その製剤手順書の標準化, および必要な製剤技術の習得が重要である. 一方で, メンバーの拡充を図るため, 当 FG の研究対象を調剤薬にまで拡大することを提案した.

「薬剤学」誌に「Pharmaceutical compounding とは何か?」を寄稿し, 広く会員に広報を行った. また, 小児用院内製剤および調剤に関する課題は, 「小児製剤 FG」と連携して解決にあたることとし, その一環として第 36 年会では小児製剤 FG と共同でラウンドテーブルセッション「小児用製剤は患者に届いているか?」を行った. コロナ禍のためメール会議による討論が中心となった.

#### 【ビジネスエコ創剤 FG】

本 FG は, AI, DX, DTx, ダイバーシティ, SDGs など多様なテーマに関して, 持続可能な医療と医薬品の未来を描き, サイエンスとビジネスエコシステムの両視点で広範囲な分野の意見を交流させ, 多角的な観点から 近未来の医薬品や医療への貢献につなげることを目的に活動してきた. 2022 年度は, オンラインシンポジウム: 「Beyond the pill と創剤エコシステム」を開催した(2023 年 2 月 10 日, 参加者約 30 名).

#### 【超分子薬剤学 FG】

複数の分子が共有結合以外の結合により秩序だって集合した分子である超分子に注目して, 「超分子化学」と「薬剤学」を融合した新規学問である「超分子薬剤学」を立ち上げ, 次世代の薬剤学を創製することを目的として次のような活動を行った.

- ・第 3 回超分子薬剤学 FG シンポジウムを文部科学省科学研究費助成事業学術変革領域研究 (A) 「物質共生」マテリアル・シンバイオシスのための生命物理化学との共催により長崎市で開催した.(2022 年 9 月 12 日): 参加者: 約 70 名.
- ・日本薬学会第 143 年会にて一般シンポジウム S19 「「超分子」と「硫黄」の出会い」を文部科学省科学研究費助成事業学術変革領域研究 (A) 「物質共生」マテリアル・シンバイオシスのための生命物理化学との共同でオーガナイズし, 対面・オンラインハイブリッドで開催した.(2023 年 3 月 26 日): 参加者約 200 名
- ・日本薬学会第 143 年会にて一般シンポジウム S07 「進展する創薬・医療 AI」をオーガナイズし, 対面・オンラインハイブリッドで開催した.(2023 年 3 月 26 日): 参加者約 150 名

#### 【小児製剤 FG】

- ・AMED 研究(令和 4~6 年度)に採択され「国際連携体制の構築」を検討.

- ・看護師、チャイルド・ライフ・スペシャリストとの小児製剤に関する座談会(2022年11月14日, 2023年1月24日)
- ・Big Dataの利活用に関する検討会(2022年7月21日, 2022年11月15日)
- ・デュッセルドルフ大学小児病院より V.Klingmann 先生をはじめ産官学より8名の演者を招聘し、「第3回小児製剤研究会」をAMEDと共催。(2023年2月3日, 対面/オンラインハイブリッド開催, 参加者121名)
- ・「薬剤学」FG対談掲載

## 2 製剤設計における種差の問題検討会(略称:製剤種差検討会)事業

2016年度より開始された製剤種差検討会は登録団体数が2023年3月末時点で57に達し,学会内外での認知度も高まっている。本製剤種差検討会はFace to faceでの討論を活動の軸にしてきたこともあり,2021年度に続き,2022年度もコロナ禍の影響で,残念ながら年2回の事例報告会(東京と京都で交互に開催)を開催できず,また本検討会の大きな財産になりつつある質問箱の追加(約130件の質問&コメント)もできなかった。したがって,例年積極的に実施してきた学会誌投稿,学会講演による宣伝活動もできなかった。

## 制度改革担当理事(山下理事)

### 1 制度改革担当事業(制度改革委員会)

- 公益社団法人として,2018年度からの主体的運用を目指して持続性のある制度に整備した。

- 1.1 主体的な学会事務運営を行うために諸制度の制定・改定や専任人材を強化し,事務機能を充実した。今期も引き続き事務局機能強化のための規程,細則の見直しを行った,

## 年会長(山本37年会長)

### 1 年会事業

本学会最大の学術集会「年会」の企画運営を行った。会員の口頭またはポスターによる研究発表の他,下記の各種講演・シンポジウム,ラウンドテーブルセッション,ランチョンセミナー,企業展示会等の多種多様なプログラムを設けたほか,若手の連携を意図した交流会を行った。

#### 1.1 第37年会の開催

メインテーマ「昭和、平成の薬剤学のレガシーと令和の薬剤学の将来展望」

特別講演:2演題,招待講演:2演題

各種受賞者講演

学術シンポジウム:6セッション

特別企画シンポジウム:3セッション,薬学教育シンポジウム,医薬品包装シンポジウム,SNPEE2022,各1セッション

ラウンドテーブルセッション:5セッション

参加者数:945名,2022年5月26-28日

オンライン開催

- 1.2 第38会組織委員会の開催:2022年6月8日,11月1日,2023年3月27日

## 学会運営(会長、事務局)

### 1 理事会

学会の業務執行の決定,理事の職務執行の監督等を行う機関であり,法人のガバナンスを担う中心的な機能を果たすべく,以下のとおり理事会を開催した。

第1回理事会	2022年4月25日
第2回理事会	2022年5月23日
第3回理事会	2022年5月26日
第4回理事会	2022年10月3日
第5回理事会	2023年1月27日

### 1 総会

正会員から選挙で選ばれた代議員で構成される学会の最高の決議機関である総会を以下のとおり zoomミーティングによるオンラインで開催した。

- 1.1 定時総会 2022年5月26日 オンライン(出席者163名,委任状含む)

以上

なお、2022年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

# 貸借対照表

2023年3月31日現在

公益社団法人日本薬剤学会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金	31,545,000	28,873,134	2,671,866
未収金	17,912	1,412	16,500
前払金	157,610	143,550	14,060
前払費用	1,602,224	1,204,250	397,974
仮払金	0	0	0
流動資産合計	33,322,746	30,222,346	3,100,400
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	20,000,000	20,000,000	0
基本財産合計	20,000,000	20,000,000	0
(2) 特定資産			
タケルアヤヒグチ記念基金	30,000,000	30,000,000	0
タケル&アヤ・ヒグチ記念表彰事業積立預金	4,132,800	4,800,000	△ 667,200
創剤開発・研究賞積立金	975,406	939,372	36,034
学術集会基金	7,900,000	7,900,000	0
特定資産合計	43,008,206	43,639,372	△ 631,166
(3) その他固定資産			
什器備品	1	5,310	△ 5,309
ソフトウェア	0	122,005	△ 122,005
敷金	271,000	271,000	0
その他固定資産合計	271,001	398,315	△ 127,314
固定資産合計	63,279,207	64,037,687	△ 758,480
資産合計	96,601,953	94,260,033	2,341,920
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
未払金	2,456,532	2,662,120	△ 205,588
前受金	60,000	60,000	0
前受会費	17,521,150	17,971,000	△ 449,850
預り金	58,710	87,343	△ 28,633
仮受金	0	10,000	△ 10,000
未払消費税等	0	700,000	△ 700,000
流動負債合計	20,096,392	21,490,463	△ 1,394,071
負債合計	20,096,392	21,490,463	△ 1,394,071
<b>III 正味財産の部</b>			
1. 指定正味財産			
寄付金	20,975,406	20,939,372	36,034
指定正味財産合計	20,975,406	20,939,372	36,034
(うち基本財産への充当額)	(20,000,000)	(20,000,000)	0
(うち特定財産への充当額)	(975,406)	(939,372)	36,034
2. 一般正味財産	55,530,155	51,830,198	3,699,957
(うち特定財産への充当額)	(42,032,800)	(42,700,000)	△ 667,200
正味財産合計	76,505,561	72,769,570	3,735,991
負債及び正味財産合計	96,601,953	94,260,033	2,341,920



# 貸借対照表内訳表

2023年3月31日現在

公益社団法人日本薬剤学会

(単位:円)

科 目	公益目的事業	法人会計	合計
<b>I 資産の部</b>			
<b>1. 流動資産</b>			
現金預金	471,376	31,073,624	31,545,000
未収金	9,222	8,690	17,912
前払金	1,800	155,810	157,610
前払費用	1,314,134	288,090	1,602,224
仮払金	0	0	0
流動資産合計	1,796,532	31,526,214	33,322,746
<b>2. 固定資産</b>			
(1) 基本財産			
定期預金	0	20,000,000	20,000,000
基本財産合計	0	20,000,000	20,000,000
(2) 特定資産			
タケルアヤヒグチ基金	30,000,000	0	30,000,000
タケル&アヤ・ヒグチ記念表彰事業積立預金	4,132,800	0	4,132,800
創剤開発・研究賞基金	975,406	0	975,406
学術集会基金	7,900,000	0	7,900,000
特定資産合計	43,008,206	0	43,008,206
(3) その他固定資産			
什器備品	0	1	1
ソフトウェア	0	0	0
敷金	0	271,000	271,000
その他固定資産合計	0	271,001	271,001
固定資産合計	43,008,206	20,271,001	63,279,207
資産合計	44,804,738	51,797,215	96,601,953
<b>II 負債の部</b>			
<b>1. 流動負債</b>			
未払金	598,860	1,857,672	2,456,532
前受金	60,000	0	60,000
前受会費	8,760,575	8,760,575	17,521,150
預り金	27,840	30,870	58,710
仮受金	0	0	0
未払消費税等	0	0	0
流動負債合計	9,447,275	10,649,117	20,096,392
負債合計	9,447,275	10,649,117	20,096,392
<b>III 正味財産の部</b>			
<b>1. 指定正味財産</b>			
寄付金	975,406	20,000,000	20,975,406
指定正味財産合計	975,406	20,000,000	20,975,406
<b>2. 一般正味財産</b>			
正味財産合計	34,382,057	21,148,098	55,530,155
負債及び正味財産合計	35,357,463	41,148,098	76,505,561
負債及び正味財産合計	44,804,738	51,797,215	96,601,953

# 正味財産増減計算書

2022年 4月 1日から2023年 3月31日まで

公益社団法人日本薬剤学会

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	200	199	1
基本財産受取利息	200	199	1
特定資産運用益	318	318	0
特定資産受取利息	318	318	0
受取会費	21,909,000	22,519,000	△ 610,000
正会員受取会費	10,953,000	11,621,000	△ 668,000
学生会員受取会費	1,756,000	1,698,000	58,000
賛助会員受取会費	9,200,000	9,200,000	0
事業収益	38,643,372	27,251,477	11,391,895
学術集会・委員会等事業収益	34,286,000	23,093,000	11,193,000
参加費	19,103,000	13,365,000	5,738,000
助成金・補助金	150,000	150,000	0
寄付金・協賛金	6,398,000	3,388,000	3,010,000
セミナー協賛金	0	120,000	△ 120,000
広告料	4,665,000	2,770,000	1,895,000
出展料	3,970,000	3,300,000	670,000
学会誌等出版事業収益	1,423,406	1,484,082	△ 60,676
購読料	461,796	433,725	28,071
投稿料・別刷料	26,950	145,200	△ 118,250
許諾料・使用料	784,660	755,157	29,503
指定正味財産からの振替	150,000	150,000	0
学会賞等表彰事業	1,613,966	1,414,395	199,571
助成金・補助金	300,000	500,000	△ 200,000
指定正味財産からの振替	1,313,966	914,395	399,571
製剤技師認定事業	1,320,000	1,260,000	60,000
受験料	820,000	840,000	△ 20,000
認定料	500,000	420,000	80,000
雑収益	1,103,600	105,959	997,641
受取利息	124	100	24
雑収益	1,103,476	105,926	997,550
経常収益計	61,656,490	49,877,020	11,779,470
(2) 経常費用			
事業費	51,703,419	42,447,949	9,255,470
給料手当	10,744,876	8,952,710	1,792,166
臨時雇賃金	390,000	1,398,160	△ 1,008,160
法定福利費	1,292,352	1,016,629	275,723
人材派遣費	589,279	817,716	△ 228,437
福利厚生費	16,216	0	16,216
会場費	2,141,127	224,400	1,916,727
旅費交通費	1,763,049	497,822	1,265,227
会議費	807,752	398,685	409,067
賞状・賞牌・副賞費	3,075,375	2,971,029	104,346
通信運搬費	2,956,285	6,223,325	△ 3,267,040
ウェブサイト管	1,266,843	1,423,944	△ 157,101
消耗品費	1,622,851	827,214	795,637
印刷製本費	6,918,628	6,639,814	278,814

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
賃借料	1,741,812	1,770,247	△ 28,435
保管料	19,800	79,200	△ 59,400
保険料	52,440	0	52,440
諸謝金	3,059,742	2,099,815	959,927
支払負担金	1,168,072	1,228,849	△ 60,777
業務委託費	11,397,777	4,962,670	6,435,107
雑費	679,143	915,720	△ 236,577
管理費	6,253,114	8,099,260	△ 1,846,146
給料手当	2,632,420	2,323,575	308,845
退職手当	0	150,000	△ 150,000
法定福利費	316,617	263,854	52,763
福利厚生費	3,973	63,612	△ 59,639
旅費交通費	412,208	148,077	264,131
会議費	8,310	32,180	△ 23,870
通信運搬費	254,574	1,546,029	△ 1,291,455
ウェブサイト管	291,919	264,377	27,542
減価償却費	127,314	196,820	△ 69,506
研修費	25,300	0	25,300
消耗品費	58,491	66,880	△ 8,389
印刷製本費	18,951	196,800	△ 177,849
賃借料	426,732	459,447	△ 32,715
租税公課	90,160	701,070	△ 610,910
業務委託費	364,684	395,161	△ 30,477
公認会計士報酬	990,000	990,770	△ 770
雑費	231,461	300,608	△ 69,147
経常費用計	57,956,533	50,547,209	7,409,324
評価損益等調整前当期経常増減額	3,699,957	△ 670,189	4,370,146
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	3,699,957	△ 670,189	4,370,146
2. 経常外増減の部			0
(1) 経常外収益			0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	3,699,957	△ 670,189	4,370,146
一般正味財産期首残高	51,830,198	52,500,387	△ 670,189
一般正味財産期末残高	55,530,155	51,830,198	3,699,957
II 指定正味財産増減の部			0
受取寄付金	1,500,000	0	1,500,000
一般正味財産への振替額	△ 1,463,966	△ 1,064,395	△ 399,571
創剤開発・研究賞基金	△ 1,463,966	△ 1,064,395	△ 399,571
当期指定正味財産増減額	36,034	△ 1,064,395	1,100,429
指定正味財産期首残高	20,939,372	22,003,767	△ 1,064,395
指定正味財産期末残高	20,975,406	20,939,372	36,034
III 正味財産期末残高	76,505,561	72,769,570	3,735,991

# 正味財産増減計算書内訳表

2022年 4月 1日から2023年 3月31日まで

公益社団法人日本薬剤学会

(単位：円)

科 目	公益目的事業	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	0	200	200
基本財産受取利息	0	200	200
特定資産運用益	318	0	318
特定資産受取利息	318	0	318
受取会費	10,954,500	10,954,500	21,909,000
正会員受取会費	5,476,500	5,476,500	10,953,000
学生会員受取会費	878,000	878,000	1,756,000
賛助会員受取会費	4,600,000	4,600,000	9,200,000
事業収益	38,643,372	0	38,643,372
学術集会・委員会等事業収益	34,286,000	0	34,286,000
参加費	19,103,000	0	19,103,000
助成金・補助金	150,000	0	150,000
寄付金・協賛金	6,398,000	0	6,398,000
広告料	4,665,000	0	4,665,000
出展料	3,970,000	0	3,970,000
学会誌等出版事業収益	1,423,406	0	1,423,406
購読料	461,796	0	461,796
投稿料・別刷料	26,950	0	26,950
許諾料・使用料	784,660	0	784,660
指定正味財産からの振替	150,000	0	150,000
学会賞等表彰事業	1,613,966	0	1,613,966
助成金・補助金	300,000	0	300,000
指定正味財産からの振替	1,313,966	0	1,313,966
製剤技師認定事業	1,320,000	0	1,320,000
受験料	820,000	0	820,000
認定料	500,000	0	500,000
雑収益	37,300	1,066,300	1,103,600
受取利息	60	64	124
雑収益	37,240	1,066,236	1,103,476
経常収益計	49,635,490	12,021,000	61,656,490
(2) 経常費用			
事業費	51,703,419	0	51,703,419
給料手当	10,744,876	0	10,744,876
臨時雇賃金	390,000	0	390,000
法定福利費	1,292,352	0	1,292,352
人材派遣費	589,279	0	589,279
福利厚生費	16,216	0	16,216
会場費	2,141,127	0	2,141,127
旅費交通費	1,763,049	0	1,763,049
会議費	807,752	0	807,752
賞状・賞牌・副賞費	3,075,375	0	3,075,375
通信運搬費	2,956,285	0	2,956,285
ウェブサイト管	1,266,843	0	1,266,843
消耗品費	1,622,851	0	1,622,851
印刷製本費	6,918,628	0	6,918,628
賃借料	1,741,812	0	1,741,812
保管料	19,800	0	19,800
保険料	52,440	0	52,440
諸謝金	3,059,742	0	3,059,742

科 目	公益目的事業	法人会計	合計
支払負担金	1,168,072	0	1,168,072
業務委託費	11,397,777	0	11,397,777
雑費	679,143	0	679,143
管理費	0	6,253,114	6,253,114
給料手当	0	2,632,420	2,632,420
法定福利費	0	316,617	316,617
福利厚生費	0	3,973	3,973
旅費交通費	0	412,208	412,208
会議費	0	8,310	8,310
通信運搬費	0	254,574	254,574
ウェブサイト管	0	291,919	291,919
減価償却費	0	127,314	127,314
研修費	0	25,300	25,300
消耗品費	0	58,491	58,491
印刷製本費	0	18,951	18,951
賃借料	0	426,732	426,732
租税公課	0	90,160	90,160
業務委託費	0	364,684	364,684
公認会計士報酬	0	990,000	990,000
雑費	0	231,461	231,461
経常費用計	51,703,419	6,253,114	57,956,533
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 2,067,929	5,767,886	3,699,957
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 2,067,929	5,767,886	3,699,957
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 2,067,929	5,767,886	3,699,957
一般正味財産期首残高	36,449,986	15,380,212	51,830,198
一般正味財産期末残高	34,382,057	21,148,098	55,530,155
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	1,500,000	0	1,500,000
一般正味財産への振替額	△ 1,463,966	0	△ 1,463,966
創剤開発・研究賞基金	△ 1,463,966	0	△ 1,463,966
当期指定正味財産増減額	36,034	0	36,034
指定正味財産期首残高	939,372	20,000,000	20,939,372
指定正味財産期末残高	975,406	20,000,000	20,975,406
III 正味財産期末残高	35,357,463	41,148,098	76,505,561

## 財務諸表に対する注記

### 1. 重要な会計方針

- (1)固定資産の減価償却  
固定資産の減価償却は定額法によっている。  
(2)消費税等の会計処理  
消費税の会計処理は、税込み方式によっている。

### 2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。(単位:円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	20,000,000	0	0	20,000,000
小計	20,000,000	0	0	20,000,000
特定資産				
タケノコ記念基金	30,000,000	0	0	30,000,000
タケノコ&アヤ・ヒメ記念表彰事業積立預金	4,800,000	0	667,200	4,132,800
創製開発・研究賞積立金	939,372	1,500,000	1,463,966	975,406
学術集会基金	7,900,000	0	0	7,900,000
小計	43,639,372	1,500,000	2,131,166	43,008,206
合計	63,639,372	1,500,000	2,131,166	63,008,206

### 3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。(単位:円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	20,000,000	20,000,000	0	(0)
小計	20,000,000	20,000,000	0	(0)
特定資産				
タケノコ記念基金	30,000,000	0	30,000,000	(0)
タケノコ&アヤ・ヒメ記念表彰事業積立預金	4,132,800		4,132,800	(0)
創製開発・研究賞積立金	975,406	975,406		(0)
学術集会基金	7,900,000	0	7,900,000	(0)
小計	43,008,206	975,406	42,032,800	(0)
合計	63,008,206	20,975,406	42,032,800	(0)

### 4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。(単位:円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	254,880	254,879	1
合計	254,880	254,879	1

### 5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上
Award Grant 助成金	(公財)永井記念薬学国際交流財団	0	300,000	300,000	0	注)
スカラシップ・七つ星助成金(年会)	(公財)永井記念薬学国際交流財団	0	150,000	150,000	0	注)
合計		0	450,000	450,000	0	注)

※注)いずれも当該年度内に目的たる支出が完了するため、貸借対照表上の記載はない。

### 6. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

内 容	金 額
経常収益への振替額	
事業収益	
学会誌等出版事業収益	
創製開発・研究賞積立金	150,000
学会賞等表彰事業	
創製開発・研究賞積立金	1,313,966
合計	1,463,966

## 附属明細書

### 1. 基本財産および特定資産の明細

「公益法人会計基準」(平成20年4月11日、平成21年10月16日改正内閣府公益認定等委員会)に定める附属明細書の記載上の留意点に従い、財務諸表の注記3および4に記載しているため、内容の記載を省略している。

### 2. 引当金の明細

(単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		当期末残高
			目的使用	その他	
なし	0	0	0	0	0

以上

財産目録  
2023年3月31日現在

公益社団法人日本薬剤学会

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
<b>(流動資産)</b>				
	現金預金			<u>31,545,000</u>
	現金	現金	事務局手許現金	187,858
	預金	普通預金		5,045,128
		三菱UFJ/江戸川橋	運転資金として	3,466,472
		三菱UFJ/江戸川橋(セミナー)	同上	0
		三住信/本店	同上	1,578,656
		郵便/会費	同上	23,507,219
		郵便/講習会	同上	2,795,620
		ゆうちょ総合一三八	同上	9,175
	未収金	文献権利許諾使用料他	公益目的事業の未収額	9,222
		その他	法人運営の未収金	8,690
	前払金	旅費交通費	公益目的事業の前払分	1,800
		事務所家賃他	法人運営の前払分	155,810
	前払費用	加盟団体年会費他	公益目的事業の前払分	1,314,134
		ソフト利用料他	法人運営の前払分	288,090
<b>流動資産合計</b>				<b>33,322,746</b>
<b>(固定資産)</b>				
<b>基本財産</b>				
	預金		公益目的事業に必要なその他の活動の用に供する財産であり、運用益を管理費に使用	<u>20,000,000</u>
		(普通)三住信/本店		20,000,000
<b>特定資産</b>				
	タケルアヤヒグチ記念基金		公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業(ヒグチ記念各賞表彰事業)に使用	<u>30,000,000</u>
		(普通)三住信/本店		30,000,000
	タケル&アヤ・ヒグチ記念表彰事業積立預金		特定費用準備資金であり公益目的事業に使用	<u>4,132,800</u>
		郵便/会費		4,132,800
	創剤開発・研究賞積立金		公益目的事業(創剤開発・研究賞表彰事業)に使用	<u>975,406</u>
		(普通)三住信/本店		975,406
<b>その他固定資産</b>				
	学術集会基金		公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業(年会事業)に使用	<u>7,900,000</u>
		郵便/会費		7,900,000
				<u>271,001</u>
	什器備品	パソコン	法人の管理運営に供している資産	1
	敷金	事務所借室学会センタービル	法人の管理運営に供している資産	271,000
<b>固定資産合計</b>				<b>63,279,207</b>
<b>資産合計</b>				<b>96,601,953</b>
<b>(流動負債)</b>				
	未払金	学会誌編集費, 事務委託費等	公益目的事業及び法人運営の未払分	2,456,532
	前受金	認定事業受験料	公益目的事業の前受分	60,000
	前受会費	次年度以降会費	公益目的事業及び法人運営の前受分	17,521,150
	預り金	源泉所得税	公益目的事業及び法人運営の未払分	58,710
<b>流動負債合計</b>				<b>20,096,392</b>
<b>負債合計</b>				<b>20,096,392</b>
<b>正味財産</b>				<b>76,505,561</b>

# 報告書

2023年4月19日

公益社団法人日本薬剤学会  
会長 尾関 哲也 殿

馬目公認会計士事務所

公認会計士 馬目 利昭



## 1. 確認の方法と概要

私は、公益社団法人日本薬剤学会の2022年度（2022年4月1日から2023年3月31日まで）の財務諸表等、すなわち、貸借対照表、貸借対照表内訳表、正味財産増減計算書、正味財産増減計算書内訳表、財務諸表に対する注記、財産目録及び附属明細書について、確認を行いました。

確認に当たって、私は、試査を基礎とし、通帳、請求書、領収書等の関係証憑と会計帳簿間の照合、及び財務諸表等が会計帳簿に基づき適正に作成されているか検討を行いました。

## 2. 意見

確認の結果、私は、上記の財務諸表等が、一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、公益社団法人日本薬剤学会の2022年度末日現在の財政状態及び同事業年度の正味財産増減を重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以上




# 監査報告書

公益社団法人 日本薬剤学会  
会長 尾関 哲也 殿

2023年4月20日

公益社団法人 日本薬剤学会

監事 玉井 郁巳 

監事 山本 昌 

私たちは、2022年4月1日から2023年3月31日までの2022年度における会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

## 1 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて計算書類の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会およびその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

## 2 監査意見

- (1) 収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録、財務諸表に対する注記及び附属明細書は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示していると認める。
- (2) 事業報告書及び附則明細書の内容は真実であると認める。
- (3) 理事の職務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

以上